

報告書

第3回 J L A シミュレーション審査会

2019年1月
一般財団法人 日本ライフセービング協会

目次

1. 概要
2. 審査会風景写真
3. メディア露出結果
4. 所感

第3回 JLA シミュレーション審査会の概要

早期発見から医療機関への引き継ぎ連携まで！

ライフセーバーの海水浴場における監視活動中に発生するあらゆる水難事故・傷病を想定し、ライフセーバーの救助救命技術の向上やライフセーバー間の技術共有だけでなく、公的救助機関との高度な連携を図ることで傷病者の社会復帰を確実にすることが審査会の実施目的です。また、審査会を実施者・審査員が共に学び成長できる機会にするとともに、審査会を通じて、各地のライフセーバーと公的救助機関との連携促進を目指します。



第3回 JLA シミュレーション審査会

2018年

- 10月21日(日) 千葉県山武郡九十九里町 片貝海水浴場
- 10月27日(土) 兵庫県神戸市須磨区 須磨海水浴場
- 11月17日(土) 神奈川県葉山町 大浜海岸
- 11月25日(日) 福岡県糟屋郡新宮町 新宮海水浴場



■主催■
一般財団法人日本ライフセービング協会 (JLA)

■後援■
消防庁、海上保安庁、神奈川県、千葉県、兵庫県、福岡県、
神戸市、九十九里町、新宮町、葉山町

■協賛■
株式会社フィリップス・ジャパン
株式会社櫻井興業 GUARD 事業部
千葉県レクリエーション都市開発株式会社

■協力■
神戸市消防局、粕屋北部消防本部、山武郡市広域行政組合消防本部、葉山町消防本部、
福岡海上保安本部、福岡県粕屋警察署、鏡子海上保安部、
国土院大学防災・救急救助総合研究所、医療法人社団幸隆会多摩丘陵病院、有限会社吉田三郎商店、
JLA九州ブロック、JLA 神奈川県支部、
NPO法人九十九里ライフセービングクラブ、神戸ライフセービングクラブ、
新宮ライフセービングクラブ、東京消防庁ライフセービングクラブ、
NPO法人西浜サーフライフセービングクラブ、NPO法人葉山ライフセービングクラブ

想定概略

制限時間

1チーム
9分

係員統括（以下統括）の『想定はじめ』の合図で計測開始とします。
6名態勢で通常の監視業務中に有事が起きてしまった。
他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは当日の状況とします。
遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の3者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。
実施者により仮想119通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。
統括の『想定終了』の合図によって審査終了とします。
*想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項など、
告知できる範囲で実施チームにお知らせします。

チーム構成

実施人数

1チーム
6名

内訳：監視長1名・監視員5名

審査項目

- ①継続監視要領
- ②的確な観察要領
- ③監視員連携要領
- ④救急隊への引き継ぎ要領
- ⑤観衆への対応要領
- ⑥監視長の指揮要領
- ⑦資器材の適正な取扱い要領
- ⑧周囲状況を考慮した対応要領
- ⑨接遇要領
- ⑩関係者の対応要領
- ⑪観察・救護要領

Timetable & Team List

10/21 sun 千葉県片貝会場

09:00	実施チーム受付開始
09:45	開会式 初めの挨拶
10:05	御来賓・審査員他、ご紹介
10:30	第1回目 九十九里 LSC・富津チーム
10:45	第2回目 九十九里 LSC・富浦チーム
11:00	第3回目 九十九里 LSC・片貝チーム
11:15	第4回目 九十九里 LSC・裾南チーム
11:30	第5回目 九十九里 LSC・笹沼チーム
11:45	第6回目 九十九里 LSC・本須賀チーム
12:00	審査員 昼食
13:00	第7回目実施 鹿嶋 LG
13:15	第8回目実施 御宿 LSC・A
13:30	第9回目実施 鏡子 LC (飯岡)
13:45	第10回目実施 大洗 SLSC
14:00	第11回目実施 御宿 LSC・B
14:30	審査長、MD、他 講評
15:00	終了予定
15:30	解散予定

10/27 sat 兵庫県須磨会場

12:00	実施チーム受付開始
12:45	開会式 初めの挨拶
13:05	御来賓・審査員他、ご紹介
13:30	第1回目 神戸 LSC・B
13:45	第2回目 大阪 LSC
14:00	第3回目 天橋立 LSC
14:15	第4回目 大阪体育大学 LSC
14:30	第5回目 神戸 LSC・A
15:00	審査長、MD、他 講評
15:30	終了予定
16:00	解散予定

11/17 sat 神奈川県葉山会場

08:50	実施チーム受付開始
09:20	開会式 初めの挨拶
09:30	御来賓・審査員他、ご紹介
10:00	第1回目 西伊豆・松崎 LSC
10:15	第2回目 熱川 LSC
10:30	第3回目 下田 LSC
10:45	第4回目 三浦海岸 SLSC
11:00	第5回目 西浜 SLSC
11:15	第6回目 波崎 SLSC
11:30	第7回目 辻堂 LC
11:45	第8回目 湘南ひらつか LSC
12:00	第9回目 葉山 LSC
12:15	審査員 昼食
13:15	第10回目 館山 SLSC
13:30	第11回目 横浜海の公園 LSC
13:45	第12回目 大竹 SLSC
14:00	第13回目 中央大学 LSC
14:15	第14回目 鏡子 LC
14:30	第15回目 逗子 SLSC
15:00	審査長、MD、他 講評
15:35	終了予定
16:00	解散予定

11/25 sun 福岡県新宮会場

12:00	実施チーム受付開始
12:50	開会式 初めの挨拶
13:00	御来賓・審査員他、ご紹介
13:30	第1回目 新宮 LSC・B
13:45	第2回目 新宮 LSC・A
14:00	第3回目 広島国際大学 LSC
14:15	第4回目 九州産業大学 LSC・B
14:30	第5回目 九州産業大学 LSC・A
15:00	審査長、MD、他 講評
15:30	終了予定
16:00	解散予定

*タイムテーブルは予定です。
*変更事項は当日のインフォメーションでご確認ください。

2018年12月8日(土) JLA 納会にて
優秀チームを表彰します。

第3回JLAシミュレーション審査会の概要

【審査会の趣旨】

ライフセーバーの海水浴場監視活動中に発生するあらゆる水難事故を想定し、溺水者や傷病者を早期に発見し、迅速で的確な一次救命処置から救急隊及び医療機関へ引き継ぐまでの連携技能を高めることで、溺水者、傷病者の社会復帰を確実にする。

【審査会の目的】

監視業務継続中、有事の対応及び医療機関まで『命をリレーする一員』として、連携能力向上を目的とする。

第3回 J L A シミュレーション審査会の概要

想定

時間	項目	備考
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
想定開始後 5秒後スタート 本部前波打ち際 から	監視本部目の前の波打ち際から、関係者友人 A（年齢実年齢、会社員、水谷康人(やすと)若しくは康子(やすこ)）に肩を貸してもらいながら、びっこを引き、『何かに足の甲を挟(はさ)まれた』『痛い…』と訴え、監視本部内に侵入してくる。傷病者(年齢実年齢、自営業、小野典夫(のりお)若しくは典子(のりこ))。水深 30 c m位の波打ち際で激痛を覚える。時間経過とともに痛みが増し、座ってもいられなくなる。 ブラインド想定：受傷原因はアカエイによるもの。たんぱく質毒のため 40℃程度のお湯に浸さない限り痛みが治まらない。傷病者本人は何が起きたのかアカエイ自体を視認していないのでわかっていない。受傷部位が足の甲で痛みが増してくる。湯に浸けて痛みが徐々に軽減する。ここでの判断が必要である。毒針による穿通時は挟まれたような感覚もある。バイタル：意識清明、その他実測通り、容態変化は温める行為が監視本部着3分以内に無いとのたうち回るほど痛みが増す。	
想定開始後 60秒後スタート 海の家から駆け 寄ってくる	監視本部から 150m程度離れた海の家（一品香 いっぴんこう）内のシャワー室で人が倒れていると通報を受ける。 通報者にあつては、海の家（一品香）の従業員（年齢実年齢、バイト、雲藤修司(うんどうしゅうじ)若しくは修子(なおこ))。シャワー室で倒れているのを発見し、監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者（年齢実年齢、アパレル経営役員、日高満(みつる)若しくは満江(みつえ))。海の家(一品香)内シャワー室。側臥位 傷病者バイタル：(生体中川委員、意識レベル 100 痛み刺激にかろうじて払いのける動作をするが開眼しない。呼びかけに応答しない。) 顔面蒼白、体温が高く皮膚を触るととても熱い、皮膚が赤く乾いている。ガクガクと痙攣、呼吸は浅い・回数実測、脈は速いが実測、LS接触後1分で連続3回胃内容物逆流（飯類大量に準備）。上記状況以外は見たまま、外傷無し。(皮膚が赤い等負荷想定は傷病者の胸部に付加想定項目を表記する。) 関係者友人 B は、LS が海の家に来た時に現れる。慌てており、LS 接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。 駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（年齢実年齢、アパレル経営役員、日高満(みつる)若しくは満江(みつえ))、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答 090-7000-5762、住所は回答できない鎌倉市材木座とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、浜辺で遊んでいたが、傷病者は気分が悪い、足がつたと一人で海の家に戻ったところまで知っている。20分前の出来事。 関係者（友人）は救急車に同乗可能（駐車場自家用車はどうすれば…） 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
想定開始5分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
想定開始7分後	A隊長指示で、搬送開始 それまではA隊は観察継続	
想定開始9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	

第3回JLAシミュレーション審査会の概要

2018年10月21日(日)千葉県片貝会場 当日タイムテーブル

時間	項目
07:50	エキストラ集合
08:00	係員集合 設営開始 実施隊 (救急隊員)・エキストラ説明会開始
08:30	審査員説明開始
09:00	審査員・実施隊 (救急隊員)・エキストラ説明終了 実施チーム受付開始
09:45	開会式 実施チーム・審査員・エキストラ・係員本部テント前集合
10:05	山武消防本部4名様 山武郡市広域行政組合消防本部中央消防署九十九里分署長 武井裕之様、医療法人社団永生会南多摩病院血管外科部長救急科専門医 朽方規喜様、銚子海上保安部警備救難課長 面浩一郎様、九十九里町産業振興課副主幹 古関保様、のご紹介 事務連絡及び補足説明 理事長若しくは審査長石川本部長 初めの挨拶
10:30	第1回目実施 九十九里ライフセービングクラブ・富津チーム
10:45	第2回目実施 九十九里ライフセービングクラブ・富浦チーム
11:00	第3回目実施 九十九里ライフセービングクラブ・片貝チーム
11:15	第4回目実施 九十九里ライフセービングクラブ・鋸南チーム
11:30	第5回目実施 九十九里ライフセービングクラブ・蓮沼チーム
11:45	第6回目実施 九十九里ライフセービングクラブ・本須賀チーム
12:00	審査員 昼食
13:00	第7回目実施 鹿嶋ライフガードチーム
13:15	第8回目実施 御宿ライフセービングクラブA
13:30	第9回目実施 銚子ライフセービングクラブ (飯岡)
13:45	第10回目実施 大洗サーフライフセービングクラブ
14:00	第11回目実施 御宿ライフセービングクラブB
14:30	山武郡市広域行政組合消防本部中央消防署九十九里分署長 武井裕之様、医療法人社団永生会南多摩病院血管外科部長救急科専門医 朽方規喜様、銚子海上保安部警備救難課長 面浩一郎様、九十九里町産業振興課副主幹 古関保様、スーパーバイザー、審査長石川本部長 講評 事務連絡
15:00	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散
15:30	■審査員は本部テント内に集合 審査票調整後回収 審査員から意見收取 事務連絡 全係員解散

2018年10月27日(土) 兵庫県須磨会場 当日タイムテーブル

時間	項目
10:00	エキストラ集合
11:00	係員集合 設営開始 エキストラ説明会開始
11:30	審査員説明開始
12:00	審査員・エキストラ説明終了 実施チーム受付開始
12:00	実施隊 (救急隊員) 説明開始
12:45	開会式 実施チーム・審査員・エキストラ・係員本部テント前集合
13:05	神戸市消防局 須磨消防署 救急隊員10名様 神戸市消防局須磨消防署 消防防災課救急隊長 仲忠太郎様、岸和田徳洲会病院 鍛冶有登様、のご紹介 事務連絡及び補足説明 審査長尾田理事 初めの挨拶
13:30	第1回目実施 神戸ライフセービングクラブB
13:45	第2回目実施 大阪ライフセービングクラブ
14:00	第3回目実施 天橋立ライフセービングクラブ
14:15	第4回目実施 大阪体育大学ライフセービングクラブ
14:30	第5回目実施 神戸ライフセービングクラブA
15:00	神戸市消防局須磨消防署 消防防災課救急隊長 仲忠太郎様、岸和田徳洲会病院 鍛冶有登様、メディカルダイレクター、審査長尾田理事 講評 事務連絡
15:30	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 撤収開始 車内積載開始 その後 解散
16:00	■審査員は本部に集合 審査票調整後回収 審査員から意見收取 事務連絡 全係員解散

第3回JLAシミュレーション審査会の概要

2018年11月17日(土)神奈川県葉山会場 当日タイムテーブル

時間	項目
07:00	エキストラ集合
08:00	係員集合 設営開始 実施隊(救急隊員)・エキストラ説明会開始
08:30	審査員説明開始
08:50	審査員・実施隊(救急隊員)・エキストラ説明終了 実施チーム受付開始
09:20	開会式 実施チーム・審査員・エキストラ・係員本部テント前集合
09:30	葉山町消防本部 救急隊員3名様 医療法人社団幸隆会多摩丘陵病院様、海上保安庁警備救難部救難課海浜事故対策係長 大濱讓様、葉山町消防本部葉山消防署警棒係長兼隊長補佐 行谷章浩様、のご紹介 事務連絡及び補足説明 風間本部長 初めの挨拶
10:00	第1回目実施 西伊豆・松崎ライフセービングクラブ
10:15	第2回目実施 熱川ライフセービングクラブ
10:30	第3回目実施 下田ライフセービングクラブ
10:45	第4回目実施 三浦海岸サーフライフセービングクラブ
11:00	第5回目実施 西浜サーフライフセービング
11:15	第6回目実施 波崎サーフライフセービングクラブ
11:30	第7回目実施 辻堂ライフセービングクラブ
11:45	第8回目実施 湘南ひらつかライフセービングクラブ
12:00	第9回目実施 葉山ライフセービングクラブ
12:15	審査員 昼食
13:15	第10回目実施 館山サーフライフセービングクラブ
13:30	第11回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブ
13:45	第12回目実施 大竹サーフライフセービングクラブ
14:00	第13回目実施 中央大学ライフセービングクラブ
14:15	第14回目実施 銚子ライフセービングクラブ
14:30	第15回目実施 逗子ライフセービングクラブ
15:00	医療法人社団幸隆会多摩丘陵病院様、海上保安庁警備救難部救難課海浜事故対策係長 大濱讓様、メディカルダイレクター、スーパーバイザー、審査長内田理事 講評 事務連絡
15:35	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散
16:00	■審査員は本部テント内に集合 審査票調整後回収 審査員から意見収取 事務連絡 全係員解散

2018年11月25日(日)福岡県新宮会場 当日タイムテーブル

時間	項目
10:00	エキストラ集合
11:00	係員集合 設営開始 エキストラ説明会開始
11:30	JLA 審査員説明開始
12:00	審査員・エキストラ説明終了 実施チーム受付開始
12:00	実施隊(救急隊員)説明会開始
12:30	外部審査員説明開始
12:50	開会式 実施チーム・審査員・エキストラ・係員本部テント前集合
13:00	粕屋北部消防本部 救急隊員3名様・審査員1名様、福岡市消防局消防学校長 星川英一様、福岡県粕屋警察署様、福岡海上保安部警備救難課長 松本拓也様、のご紹介 事務連絡及び補足説明 審査長 初めの挨拶
13:30	第1回目実施 新宮ライフセービングクラブ B
13:45	第2回目実施 新宮ライフセービングクラブ A
14:00	第3回目実施 広島国際大学ライフセービング部
14:15	第4回目実施 九州産業大学ライフセービングクラブ B
14:30	第5回目実施 九州産業大学ライフセービングクラブ A
15:00	粕屋北部消防本部様、福岡市消防局消防学校長 星川英一様、福岡県粕屋警察署様、福岡海上保安部警備救難課長 松本拓也様、メディカルダイレクター、スーパーバイザー、審査長藤田理事 講評 事務連絡
15:30	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 撤収開始 車内積載開始 その後 解散
16:00	■審査員は本部に集合 審査票調整後回収 審査員から意見収取 事務連絡 全係員解散

第3回 J L A シミュレーション審査会の概要

会場図

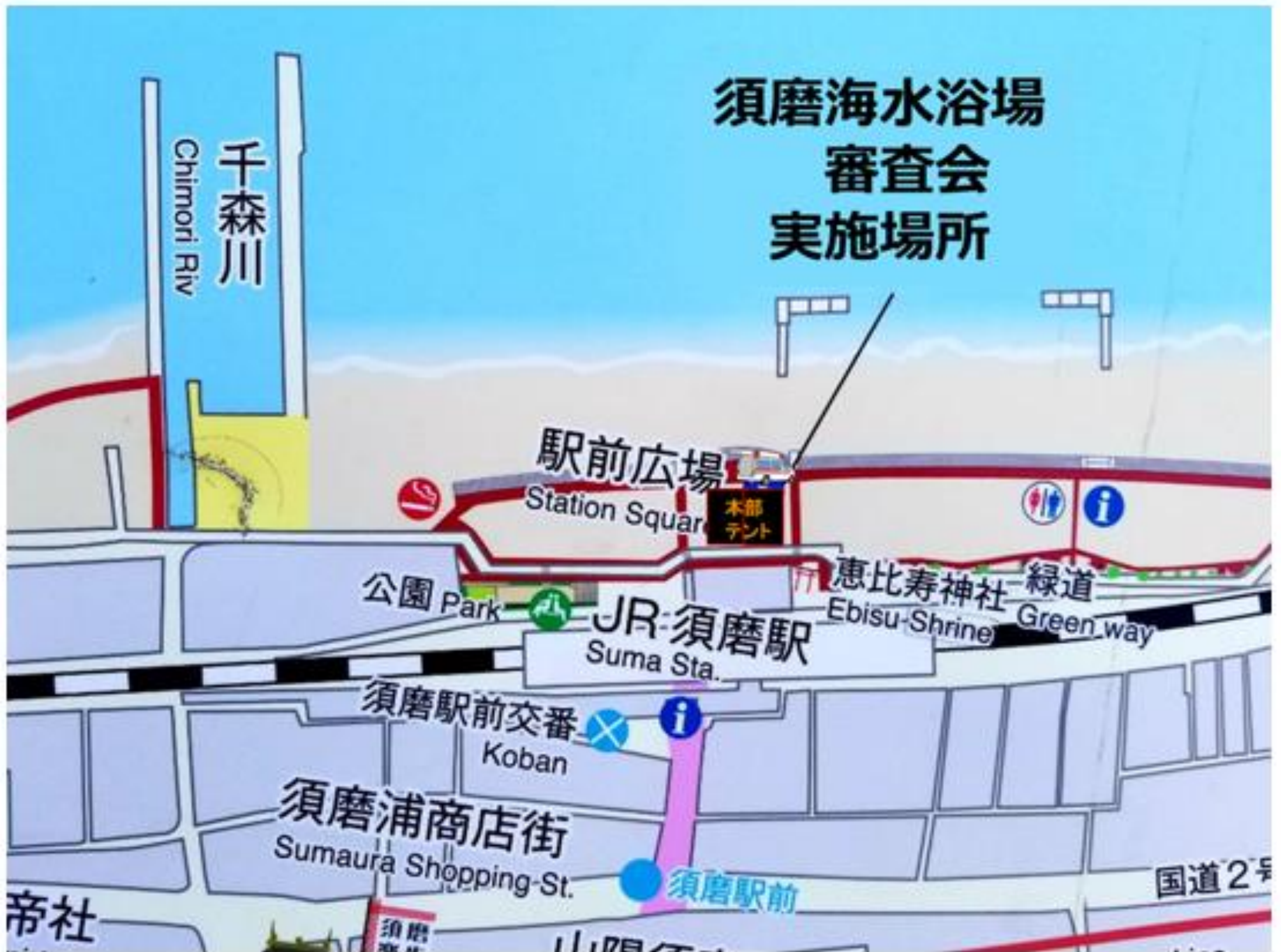
千葉県山武郡九十九里町 片貝海水浴場 会場図



第3回JLAシミュレーション審査会の概要

会場図

兵庫県 須磨海水浴場 会場図



須磨海水浴場 審査会 実施場所



第2回JLAシミュレーション審査会の概要

会場図 神奈川県葉山町 大浜海岸 会場図



第3回JLAシミュレーション審査会の概要

会場図

福岡県糟屋郡新宮町下府 新宮海水浴場 会場図





多くの企業様に協賛ご支援いただき、千葉県下初のJLAシミュレーション審査会が開催されました。



実施チーム・エキス
トラ・審査員・係員ともに
本番さながらに実施する
ことで、検討事項や推奨
事項が発見でき、今後の
活動に活かすことができ
ます。





閉会式では、各機関からの貴重な講評があり、ライフセーバーが公的救助機関到着前や、現着した後、どんな行動・準備をすることが、早期搬送に寄与できるかご教授頂けました。この事は国内の水辺の安全管理に大きく影響されると考えます。



救急隊は、概ね3名で様々な器材を現場まで運び、砂地という足場の不安定は活動環境となります。

メインストレッチャーでの搬送に、ライフセーバーがいかにかサポートできるか、引き継ぐ相手の求めていることに応えていけるよう錬成継続が必要となります。



砂に線を引き、観衆の進入の抑止力にしている。この発想はエキストラにとって影響ある効果ある行動であった。



通報を受けてから現場まで全力で走る。この事により、現着直後の本部との無線交信は息が切れ、意思の全く通らない交信となり、60秒近く交信不通になってしまっているチームも少なくありませんでした。

この事は今後の検討事項として大きな課題と考えます。



友人が倒れている。関係者にとって心穏やかでいられない。不安な心境の中、ケースバイケースですが、そっと差し伸べる手が『不安』という気持ちに対して寄り添える心を救える接遇と考えます。

血のりの活用により、リアルな海生物受傷部位を再現でき、また、エキストラにあっては、アカエイの被害経験者を設定したことにより、自身の経験そのものを演じて下さりました。多くのライフセーバーにとって対応の課題を持ち帰れたのではないのでしょうか。





多くの公的救助機関に協力して頂けたことによって、講評含め多くの教示があった。

この会場では実施2年もということもあり、多くのチームが技術向上していることが伺えた。



海の家の中での想定。この事は海水浴場で起こりえる想定であり、また、飲酒している浴客が多くいる観衆下での活動が、再現できたと考えます。

この事は各海水浴場での課題ではあるものの、実際に起こり得た場合の対処をより現実的に課題として持ち帰れたのではないのでしょうか。

その他、『傷病者記録票』の取扱いによって、救急隊到着後も聴取継続し、救急隊に情報を早期に引き継ぎ、他の行動に移れないなど課題も見えた。

バックボードのストラップ固定に大きく時間が掛かり、救急隊長が搬送開始と言ってから120秒近く時間を要すなど、より具体的な課題があきらかになりました。





JLA SIMULATION



全ての会場同様ですが、多くの審査員・係員と多くの無線機など活用し、関わった全ての方にとって学ぶべき事項が多かったと考えます。



JLA SIMULATION



審査員の方々。審査する側の眼差しも真剣そのものです。ライフセービング活動は、事故未然防止が大前提ですが、毎年、起きる水難事象に対し、医療機関まで早期搬送し、社会復帰を確実なものにすることが、我々の挑戦できることと考えます。皆さんと共に向上出来たらと望んでいます。





株式会社フィリップス・ジャパン様にご協賛頂いたAED及びAEDパットが充実していたことにより、多くのライフセーバーにとって、全国に水辺利用者にとって、より高度な公的救助機関との連携や技術の向上出来る機会となったと深く感謝しています。



一方、はだしで活動することによって、二次災害・受傷事故の危険性の課題もある。各チームは今後の課題として検討すべき事項です。





全実施チーム36チーム

実施者216名 係員112名 見学者約200名

合計約530名

多くの参加者のもと実施された第3回JLAシミュレーション審査会は、今後大きなイベントとして飛躍する可能性を確信しています。



【所感】

日本ライフセービング協会に登録しているライフセービングクラブが活動する全国207カ所の海水浴場では、各々、有事を想定した事故対応訓練（シミュレーショントレーニング）を実施しています。

ライフセービングは、事故を未然に防ぐことが第一の目的です。

しかし、実際には数万人の水浴場利用者に対して、十数人で監視するには限界があるのは否めません。そこで普段の備えとして、有事を想定したシミュレーショントレーニングを行うことが重要となります。

そのトレーニングレベルは様々で、水浴場利用者数が一日に数万人となるような場所では、様々な経験からなるトレーニング内容が実施されています。一方、一日の水浴場利用者数が数十人の場所では各事象が少ないため、ライフセーバー自体の有事対応の経験値に大きな差が生まれてしまいます。

このような背景があるものの、ライフセーバーには、普段のパトロールでは高度な連携技能が求められ、その連携能力が有事にも発揮されなければなりません。

更には、有事発生時に医療機関まで早期搬送するには、『医療機関までリレーする一員』として自覚し、公的救助機関との高度な連携能力が重要と考えます。

消防白書*1によると、救急車が、災害現場に到着してから医療機関に到達する時間は、全国平均【30分48秒】

救急隊が、災害現場を出発してから医療機関到着までは全国平均

【11分30秒】

現場で20分近く何をしているのか

傷病者の情報をとったり、荷物を回収したり、友人などの関係者や救急車に同乗する人物を確保したり救命救護だけでなく様々な活動を行っています。

救急隊が医療機関に早く出発できるようライフセーバーには協力できることがあるのです。

普段から日本ライフセービング協会が推奨する『傷病者記録票』を活用するなど、救急隊への申し送りや、事前に情報聴取は、医療機関へ早期搬送に対して有益な行動となります。

チーム単位のトレーニングと違い、審査会の実施で、より実際の災害現場に近い環境下であり、観衆に囲まれての環境で実施。

事後に審査会の検証会や、審査員の審査票から検討推奨事項を全国に発信し、来年度の全国のパトロール活動に活用することで、島国日本の安全沿岸利用に繋がればと願ってやみません。

全国の水辺で起こる事故は防げる、又は発生してしまった後、予後を大きくしない活動にライフセーバーは審査会を通して、様々挑戦していきます。

医療機関まで搬送リレーする一員として、情報申し送りをより効率的・迅速に行う。

我々の行動で【30分48秒】が28分や27分になるかもしれない。

助けられる命のリレー 挑戦していきます。

一般財団法人 日本ライフセービング協会
溺水防止救助救命本部

第3回JLAシミュレーション審査会 実行委員長 菊地太

*1 <http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h29/h29/index.html>